



- 1 天台大師(智顛)または伝教大師(最澄)の像とも伝えられているお大師様の石像
- 2 石像の近くにある「平泉型宝塔」
- 3 石像は明治27年に作られた石柵で囲われている
- 4 石柵の下からは円形状の石組みが見つかった

### お大師様周辺の発掘調査結果

お大師様がいらっしゃる場所は周辺より小高くなっている。この高まりの成り立ちを確認するために発掘調査を行いました。その結果、お大師様周辺の高まりは3時期(中世・江戸時代・明治時代以降)の変遷があることが分かりました。

#### 1 中世

お大師様を囲んでいる石柵の下からは、20〜30センチの石で構成された円形の石組みが見つかりました。

#### 2 江戸時代〜明治初頭

お大師様の北側では他の部分では表面にしかない川原石が40センチほど堆積しており、ここからは墨で「一」や「何」などが書かれた石が出土しました。この石は經典の字のうち一文字を書き写し、それを埋納した一字一石経と考えられます。同じ場所から寛永通宝が出土していることから、江戸時代のもと考えられます。

#### 3 明治27年〜現在

お大師様の周りには石柵があり、柱には明治27年に作られたことが記されています。この石柵が作られた時に背後の磐座を北端にして東西6メートル、南北8メートルの範囲に川原石を敷き詰め、西側は元々露出していた岩を端に、東・南側は大きな凝灰岩を並べて縁石として、お大師様周辺の環境整備が行われて、現在私たちが見ている空間は明治27年に作られたことが分かりました。

# 疱瘡ほうそうの神様として、古くから人々の信仰を集めてきた



写真: 大師堂

### お大師様の歴史

お大師様(オダイシヤマ)は、頭巾をかぶり、胸部を開いたけさを身に付け、両手は膝上で印を結ぶ像高103.3センチの僧形座像。像を運ぶ途中に現在の場所まで動かなくなったため、その場に安置されたと伝えられています。

またお大師様は、疱瘡の神様として庶民の信仰を集め、お大師様の鼻の部分に削った石を煎じて飲むと、疱瘡が治ると伝えられてきました。そのため、その御利益にあやかうと昭和25年ごろまでは、参拝客が後を絶たなかったと言います。



お大師様が祀られている大師堂の場所



出土した「一字一石経」

また、お大師様の周辺には12世紀後半と考えられる平泉型宝塔や永仁二(1294)年六月八日の紀年銘をもつ板碑も確認されています。

このことは、お大師様周辺が磐座を中心にして、12世紀以降現代に至るまで祭祀を行う場であったことを示しています。

さらに、お大師様が鎮座する長島月館地区は北上川東岸に位置し、12世紀の遺物が突出して見つかっている地区です。地形的にも対岸の白鳥館遺跡(奥州市前沢区)とともに平泉の北の玄関口とも言える場所にあり、平泉の市街地から北側を直視できる一番端に位置しています。

よってお大師様は磐座とセットで当初からこの月館の地に鎮座されていたのではないかと考えられます。